

韓国語を母語とする日本語学習者の メタ言語表現の使用とレベル別特徴 —「論点化」と「言い淀み」に着目して—

岩佐詩子（桜美林大学）・奥村圭子（山梨大学）・金庭久美子（目白大学）
坂井菜緒（武蔵大学）・西部由佳（早稲田大学）・萩原孝恵（山梨県立大学）

要 旨

本研究では国立国語研究所『日本語学習者会話データベース』を用い、インタビューテストにみられる韓国語を母語とする日本語学習者のメタ言語表現の使用とレベル別特徴を明らかにする。初級-上（5名）、中級-上（14名）、上級-上（8名）、超級（3名）のデータを対象に、西部他（2023）が示したメタ言語表現の6分類（①焦点化、②論点化、③行動表示、④ことわり、⑤言い淀み、⑥緩和化）をもとに判定した。その結果、メタ言語表現は初級-上では判定できるものではなく、中級-上以上でみられたが、中級-上では不完全な使用も多かった。レベルによる質的違いがあった②論点化、⑤言い淀みの分析から、②では言及対象が自分の発話だけでなく、相手や第三者へと広がる使用が観察された。⑤では適当な言葉を検索する「言い淀み」から相手の発話への関連付けや配慮を示す「言い淀み」がみられ、結果的に共話的な談話を作り上げるという過程が示唆された。

【キーワード】 メタ言語表現 レベル別特徴 論点化 言い淀み
日本語インタビューテスト

1. はじめに

本研究では、日本語インタビューテストにみられるメタ言語表現について、韓国語を母語とする日本語学習者におけるレベル別特徴を明らかにすることを目的とする。「メタ言語表現」について西條（1999）は「談話において、自分あるいは他者の言ったこと、これから言うことに言及する表現」（p.14）と定義しており、「さっき言ったように」や「なんていうか」などがそれに当たる。また、李（2020）は、日本語母語話者の使用例から「メタ言語表現とは、表現主体が、自分や他者（相手／第三者）がそれまでに行った・いま行っている・これから行おうとするコミュニケーションに言及する言語表現」（p.86）と述べている。本稿では、西條（1999）の定義に加え、李（2020）の他者（相手／第三者）にも注目する。

例えば、以下は日本語母語話者同士の会話で、病院で患者の家族が医者から治療法

について説明を受けた後のやり取りの実例である。

患者の家族 「つまり、現段階では、三つの治療法が考えられるということですね。」

医者 「はい、おっしゃる通りです。で、まず容態が落ち着くのを待ってからその三つの中から、どの方法がベストか見極めましょう。」

患者の家族 「はい、わかりました。」

患者の家族は、医者に「おっしゃる通りです」と言われたことによって、不安な気持ちを受け止めてもらったと感じたという。この「おっしゃる通りです」が本研究で扱うメタ言語表現である。

この会話において、医者は患者の家族が話したことに対して「おっしゃる通りです」と言及しているが、一方的に治療法を告げるのではなく、患者の家族の発話の一部を取り込むことによって、相手の話を聞いているサインを出し、家族の気持ちも受け止めている表現になっている。その結果、患者の家族としても、蚊帳の外ではなく治療の方法の選択に参画している気持ちになるのではないだろうか。つまり「おっしゃる通り」という表現は、相手の話したことに単に言及するだけではなく相手の不安な気持ちを受け止める一種の配慮表現となっている可能性がある。このように、私たちは日常的にメタ言語表現を使用しているが、日本語学習者はメタ言語表現をどのように使用しているのだろうか。

本研究では、韓国語を母語とする日本語学習者の日本語インタビューテストにみられるメタ言語表現の初級、中級、上級、超級のレベル別特徴を明らかにすることで、メタ言語表現の使用が談話の構築や会話相手とのやり取りにどのように関わっているのかを知る手掛かりとしたい。

2. 先行研究

メタ言語表現に関しては、古別府（1997）、佐々（2015）などの先行研究がある。古別府（1997）は日本人学生と留学生の口頭発表のデータを比較し、メタ言語表現を主題化、論点化、行動表示、流れ表示、ことわり、言い淀み、儀礼の7つに分類した。また、佐々（2015）は、ドラマ・映画のシナリオを用いて日本語と韓国語のメタ言語表現を比較し、日本語の方がメタ言語表現の使用頻度が高いと述べている。

一方、西部他（2021）は国立国語研究所『日本語学習者会話データベース』を用いて、初級から超級までの中国語母語話者のインタビューデータについて、インタビュアーと中国語母語話者の応答開始時のやり取りに注目し、分析を行っている。その結果、レベル別特徴を記述することで、質問に対し実質的返答に至るまでの「考えている」表現の習得過程を明らかにした。その習得過程の中で、上級レベル以上において

メタ言語表現がみられることを指摘している。

さらに、西部他（2023）では、西部他（2021）の結果をもとに、上級レベル以上におけるメタ言語表現の使用とその役割を明らかにすることを目的とし、上級・超級の韓国語母語話者のインタビューデータを分析している。西部他（2023）の分析で用いられたメタ言語表現の分類と例は次の通りである。

- ①焦点化：これから述べることについて具体的に言及したもの 例「どういうことか」というと」「なぜかという」と
- ②論点化：先行発話について言及したもの 例「先ほどおっしゃったように」
- ③行動表示：これからの言語行動を積極的に明示するもの 例「私から言わせてもらおうと」「正直に言って」
- ④ことわり：自分の話したい内容について言い訳をしたりことわりを入れたりするもの 例「説明がむずかしい」
- ⑤言い淀み：適当な言葉を探していることを示すもの 例「なんていうんでしょうか」
- ⑥緩和化：断定を避け言いきらず終わるもの 例「っていう」「っていうか」

なお、この分類における①焦点化と③行動表示の違いは、①は「何を話すか」ということであり、③は「どう話すか」という話す姿勢や態度のことである。

前述した古別府（1997）と西部他（2023）のメタ言語表現の分類を比較してみると、調査対象となるデータの違いが影響していることがわかる。例えば、研究報告場面の口頭発表で観察されるメタ言語表現をデータとした古別府（1997）では、発表の流れや進行をメタ言語化する「流れ表示」や、発表の始めや終わりをメタ言語化する「儀礼」といった分類が提示されている。一方、日本語学習者の対面インタビューで観察されるメタ言語表現をデータとした西部他（2023）では、古別府（1997）で提示された「流れ表示」「儀礼」の2分類がみられなかったとして削除されている。また古別府（1997）になかったメタ言語表現として、西部（2023）では⑥「緩和化」が追加されているが、日本語レベルが高くなると、発話を終結させる部分で直接的な言い方や断定を避けて言い方を和らげるような、相手を意識した表現の使用が観察されたと説明している。さらにデータによる違いは、⑤の「言い淀み」にも現れる。西部他（2023）では「言い淀み」が多く観察されたのに対し、古別府（1997 p.43）では「留学生の発表で、『言い淀み』が見られなかった」と指摘している。古別府（1997）はこの点に関して、日本人の口頭発表での「言い淀み」は「聞き手の存在を意識していること」の具現化であると説明している。

本研究と同じデータベースを対象とした西部他（2023）は、上級、超級レベルの使用傾向にとどまり、初級、中級レベルを含めたレベル別特徴については調査がなされていない。そこで、本研究ではインタビューデータを扱うため、西部他（2023）のメ

タ言語表現の分類に基づき、韓国語母語話者を対象に初級、中級も含めた分析を行い、日本語学習者におけるメタ言語表現のレベル別特徴を明らかにすることを目的とする。また本研究で使用している国立国語研究所の『日本語学習者会話データベース』においては、音声データがない会話データもあるため、ここでは初級から超級まで音声とテキストの両方が揃っている韓国語母語話者のデータを用いることによって、全体的な傾向を明らかにしたい。

3. 調査

本研究では、ACTFL-OPIの方式を利用して収集された国立国語研究所『日本語学習者会話データベース』を用いる。音声データのある韓国語を母語とする日本語学習者、初級-上（5名）、中級-上（14名）、上級-上（8名）、超級（3名）の計30名のデータを対象にメタ言語表現の分析を行った。各レベルの「-上」のデータを採用したのは、下位レベル「-上」「-中」「-下」のうち「-上」では、該当レベルの特徴が強くみられるためである。表1は調査データを示すものである。これらのデータを対象に調査者6人がペアでメタ言語表現と思われる箇所を抽出し、西部他（2023）が示した①から⑥の分類をもとに判定し、再度全員で協議の上、最終的な判定を行った。

表1 分析データ（韓国語母語話者）

| OPIレベル | データ番号（人数） |
|--------|---|
| 初級-上 | 96、100、107、108、112（5名） |
| 中級-上 | 99、104、105、172、180、184、206、219、229、231、341、364、374、379（14名） |
| 上級-上 | 91、127、155、161、245、257、260、264（8名） |
| 超級 | 323、338、349（3名） |

国立国語研究所『日本語学習者会話データベース』より

4. 結果

4.1 分類別のメタ言語表現例

西部他（2023）の①から⑥の分類に基づき、データを分析した結果、表2-1から表2-6のような例がみられた。下線部はメタ言語表現、〈 〉内は質問者の発話、（ ）内は『日本語学習者会話データベース』におけるデータ番号を示す。なお、初級-上には、メタ言語表現はみられなかった。

表2-1にみられるように、①焦点化においては、中級-上では、メタ言語表現はみられなかった。上級-上では（1）「どういことが大きいかという」とが、超級では（2）「どちらかというと〈んー〉東よ、というよりは」などがみられた。（1）や（2）では、適切にあるいは詳細に答えるために、話題の焦点を絞っており、それによって話の方向性が伝わりやすくなっている。

表2-1 メタ言語表現 ①焦点化

| | |
|------|---|
| 中級-上 | なし |
| 上級-上 | (1) いじめの問題としては〈はい〉、 <u>どういうことが大きいか</u> というと〈んん〉、しゅ集団意識ていうか〈ん〉もうみんな〈ん〉あの、弱い組には、は群れに入りたくない〈んんん〉みたいのがあって〈んー〉… (略) (上級-上:260) |
| 超級 | (2) えーっとー〈ん〉ソウルから南に〈んー〉、車で、約30分〈はー〉、って、ところですかねであのー〈んー〉ま、にしかわー〔西側〕です〈んー〉、 <u>どちらか</u> というと〈んー〉 <u>東よ</u> 、というよりは (超級:323) |

表2-2 メタ言語表現 ②論点化

| | |
|------|---|
| 中級-上 | (3) <u>そうです韓国も同じです</u> 〈ん〉、 <u>んとーさっきゆったー</u> 〔言った〕あの4つのほうそうしゃー〔放送社〕〈はい〉以外の〈ん〉なほかのほうそうしゃー〔放送社〕で〈えー〉にじゅうよっじかん〔24時間〕〈んー〉あの映画をほうそうー〔放送〕してくれます (中級-上:105) |
| 上級-上 | (4) (略) …ときどき〈ん〉、自分のーアイデンティティーがどうなんだろう〈んふーん〉、 <u>とつゆう</u> 〔いう〕〈んんん〉、面では〈ん〉 <u>やっぱりすあの先生今おっしゃったように</u> 〈んん〉すごい、ちょっと困るばあい〔場合〕もあるんですね〈んんん〉… (上級-上:245) (5) はー、 <u>{息を吸う音}</u> <u>ちよたぶん今おっしゃったところと私が、さっき〔先〕ほど</u> 〈はい〉 <u>せちめい</u> 〔説明〕したところが若干食い違ったところがあつて (上級-上、91) (6) はい、んー、 <u>ったし</u> 〔私〕の場合はその語学きょいく〔教育〕 <u>とー</u> 〈ん〉 <u>いっても</u> あのちゃんと語学ごうに入って〈んん〉でえいごー〔英語〕を勉強したり〈ん〉したこつ、と〔こと〕なーかつたんですね… (略) (上級-上:245) |
| 超級 | (7) <u>なんかよくおっしゃるんですけども</u> 〈んーはいはい〉はい、に日韓ってこういうところが違 <u>うと</u> か <u>つて</u> 〈はい〉 <u>おっしゃるんですが</u> 〈はい〉、私は皆さんがお、思つてらっしゃる〈はい〉、 <u>ほどはそ</u> そういう違いは感じてない、 <u>んですね</u> 〈あー〉 <u>どちらか</u> というと {笑} (超級:349) |

表2-2にみられるように、②論点化においては、中級-上では、自分の発話について言及して、(3)「んとーさっきゆったー〔言った〕」のように用いるが、上級-上では、相手の発話を取り込んで、(4)「あの先生今おっしゃったように」と述べている。また(5)「ちよたぶん今おっしゃったところと私が、さっき〔先〕ほど〈はい〉せちめい〔説明〕したところが若干食い違ったところがあつて」や(6)「とー〈ん〉いっても」のように、相手の発話を取り上げて修正している。さらに超級では(7)「よくおっしゃるんですけども」などの例がみられた。このように(4)から(7)の例では、相手の発話を取り込み、自分の発話に生かしている。

表2-3にみられるように、③行動表示においては、中級-上では(8)「簡単に、言うと」、上級-上では(9)「正直にいて〔言つて〕」などの例がみられたが、超級にはみられなかった。(8)や(9)では、自分の立場を明確にして個人的意見であること

を前置きして、一般論ではなく限定的な意見であることを示している。

表 2-3 メタ言語表現 ③行動表示

| | |
|------|--|
| 中級-上 | (8) (略) …詳しいことまで考えたことはないけども、あの、 <u>簡単に、言う</u> と、{息を吸う音} んー、なんか、{息を吸う音} あー、海外から、あの、ん、{舌打ち} いい選手を、あの、集めて、あの、日本の選手だけではなくあの、海外の優秀な選手を通じ、通じて、あの、そんなことを、(中級-上：364) |
| 上級-上 | (9) <u>正直にいて [言って]</u> {笑} 〈はい〉足りないと思っていますはい (上級-上：260) |
| 超級 | なし |

表2-4にみられるように、④ことわりにおいては、中級-上では(10)「ちょっとせっちゅめい [説明] が難しいですけど」、上級-上では(11)「これは、ううまくせちめい [説明] できませんけど」などがみられたが、超級にはみられなかった。(10)と(11)では、現在の思考状況を説明しながら、自分の話したい内容について言い訳や断っておきたいことを伝え、調整を図っている。

表2-5にみられるように、⑤言い淀みにおいては、中級-上レベルも上級-上レベルも(13)(14)「というか」、(12)(16)「なんと(て) いうんですか」がみられた。そのほか、中級-上では(13)「なんていうのん」、上級-上では(15)「っていいですか」、超級では(17)「なんていうんですかね」や(18)「なんていうんでしょうか」などもみられた。これらの表現は発話中の様々な箇所にもみられるが、現在の思考状況を説明しながら言語表現を探し、自分の話したい内容を修正したり調整したりしており、ターンを維持し、会話を途切らせない効果がみられる。

表 2-4 メタ言語表現 ④ことわり

| | |
|------|---|
| 中級-上 | (10) 同じをちゅくる [作る] 〈ん〉、機械に入れる 〈ん〉、ことですけど 〈ん んんん〉、 <u>ちょっとせっちゅめい [説明] が難しいですけど</u> 〈んーんんんん〉 (中級-上：192) |
| 上級-上 | (11) それはー 〈んん〉 ちょっとむっとむじゅかしい [難しい] んですけど 〈ふーん〉、 <u>これは、ううまくせちめい [説明] できませんけど</u> 〈ん〉、えーこ う、ですね例えば、行政書士は 〈ん〉、か個人個人がん [間] の 〈ん〉 あいだ 〈ん〉 なんかそ、そこで、そういう仕事をやってるんですけど 〈ん〉、司法書士は、なんか、会社とか 〈ん〉、なんか国とか 〈ん〉、ってなんか個人的になんかやってるそういう感じです (上級-上：172) |
| 超級 | なし |

表2-5 メタ言語表現 ⑤言い淀み

| | |
|------|---|
| 中級-上 | (12) (略) …あの、投手を投げたボールをはい、大きく、打ったり、あの、 <u>なんというんですか</u> あの、かんぱん [看板] あの、外野のかんぱん [看板] を越えると〈ん〉、ホームランになって… (略) (中級-上: 364) (13) はい、{息を吸う音} <u>なんていうのん</u> 、たぶかんこくー [韓国] にはあの、大きいほうーそうしゃ [放送社] 〈はい〉 <u>というか</u> 〈はい〉それが、4つあります… (略) (中級-上: 105) |
| 上級-上 | (14) 例えば、あのー、今、えー、これは、ただ、ま単に私の、意見、 <u>というか</u> 、ま、私の考えなんですけど {笑} (上級-上: 91) (15) (略) …まあとりあえず日本語、を勉強したいなっていう気持ちで〈んー〉、まああの、ま国語 <u>っていいですか</u> 〈えーえー〉、日本語だとイコール国語だと思って〈はい〉いたので… (略) (上級-上: 264) (16) (略) …ま子供が減っていく〈んー〉、で、まあそういう老人しかいないから〈ん、んーん〉、 <u>なんていうんですか</u> まあ老人のケアだったり… (略) (上級-上: 264) |
| 超級 | (17) あー韓国もその <u>なんていうんですかね</u> あのアジア的なそういうところはーん、同じかなっていう (超級: 349) (18) (略) …やっぱり、 <u>なんていうんでしょうか</u> あの、お互いに〈はい〉、あのー他人を敬うというか〈はー〉遠慮するというか… (略) (超級: 338) |

表2-6にみられるように、⑥緩和化においては、中級-上では、(19)「っというか」、上級-上では(20)「ってゆう」、超級では、(21)「っていう」などの例がみられた。なお、「というか」「っていうか」は⑤言い淀みでもみられた表現形式であるが、⑥緩和化は適当な言葉を探しているわけではなく、自分の考えについての断定を避けるために使われている。1つの話題の切れ目に来ることが多く、最後のまとめとして自身の意見を述べる際に使用されている。

表2-6 メタ言語表現 ⑥緩和化

| | |
|------|--|
| 中級-上 | (19) にはほんー[日本] のアニメみたいに〈えーえー〉、なん、レベルがちょっと高いーアニメ <u>っというか</u> (中級-上: 105) |
| 上級-上 | (20) そういう気持ちけっこう多いと思うので〈んんん〉そうからあの勉強しは〈ん〉、やすいんじゃないかなー <u>ってゆう</u> [いう] (上級-上: 245) |
| 超級 | (21) あー韓国もその <u>なんていうんですかね</u> あのアジア的なそういうところはーん、同じかなっていう (超級: 349) |

4.1では、6分類別のメタ言語表現例にどのようなものがあるかを確認した。次の4.2では、メタ言語表現の6分類に基づくレベル別出現数と使用傾向を概観することにする。

4.2 メタ言語表現の使用とレベル

メタ言語表現の6分類に基づくレベル別出現数は表3の通りである。

日本語インタビューテストにおいては、初級-上を除き、中級-上、上級-上、超級レベルでメタ言語表現の使用が確認された。各レベルの母数が異なるため、出現数で単純に比較することはできないが、全体的な傾向としては、メタ言語表現は初級-上レベルではまだ使用できない。しかし、中級-上以上のレベルになると使用が観察されるようになる。さらに、中級-上以上の6分類における使用分布をみると、①焦点化は上級-上と超級でみられた。②論点化は上級-上、超級で多くみられ、中級-上は1例のみであった。③行動表示と④ことわりは中級-上と上級-上でみられた。⑤言い淀みは中級-上からみられたが、上級-上、超級で多くみられた。⑥緩和化は中級-上、上級-上、超級でみられた。

表3 メタ言語表現の6分類に基づくレベル別出現数（数値は出現数）

| レベル | 用法 | ①焦点化 | ②論点化 | ③行動表示 | ④ことわり | ⑤言い淀み | ⑥緩和化 |
|-------------|----|----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|
| 初級-上 5名 | ○ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | △ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | × | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中級-上 14名 | ○ | 0 | 1 | 3 | 4 | 17 | 3 |
| | △ | 0 | 0 | 0 | 2 | 11 | 0 |
| | × | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 1 | 4 | 7 | 28 | 3 |
| 上級-上 8名 | ○ | 9 | 14 | 3 | 9 | 45 | 4 |
| | △ | 0 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 |
| | × | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 9 | 14 | 6 | 10 | 46 | 4 |
| 超級 3名 | ○ | 1 | 7 | 0 | 0 | 30 | 9 |
| | △ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | × | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 1 | 7 | 0 | 0 | 30 | 9 |
| 総計 | | 10 | 22 | 10 | 17 | 104 | 16 |

表3の○△×は、メタ言語表現として適切な使用・有効な使用であったか否かを段階的に○、△、×と記したものである。以下の(22)、(23)、(24)は、中級-上のレベルにおいて、それぞれ○、△、×と判定した例である。

(22) ○ (略) …なんか {息を吸う音}、んー、か、そんな、こと、そんな仕事では
なんか、んー、正直に言うと、気に入らなかったんですね

(中級-上：364、③行動表示)

- (23) △ (略) …なんか、トア [ドア] 自体、じゃなくて〈ん〉、それを作るん、あー、なんとい* [笑]、なんか同じトア [ドア] を、ずっと**作ったり〈ん〉します (中級-上: 172、⑤言い淀み)
- (24) × (略) …ちょっと、むじゅかしくて [難しくて] 〈んん〉、どんな意味か〈ん〉、は、はな〈ん、ん〉、する〈ん〉、感じ〈ふーん〉、ん、同じ文だけど〈ん〉 (中級-上: 379、④ことわり)

○は (22) のように形式が正しく、文脈上違和感のないものである。△は (23) のようにメタ言語表現として解釈されるものの、不完全な形になっているもの、×は (24) のようにメタ言語表現の「話すのは難しい」と言おうとしていることが推察されるものの、メタ言語表現としての形をなしていないものである。

表3における○△×の全体分布をみると、×は中級-上レベルのみで観察され、上級-上レベルでは○と△になり、超級レベルになると○のみになるといった傾向がみられる。特に出現数が多かった「言い淀み」の合計数をみると、中級-上レベル (14名) が28、上級-上レベル (8名) が46、超級レベル (3名) が30であり、データ数の少ない超級レベルで多くみられた。さらに、「言い淀み」がメタ言語表現として違和感なく使えているかどうかという観点から比較してみると、違和感なく使えたもの (○) は、中級-上レベルでは60.7% (17/28)、上級-上レベルでは97.8% (45/46)、超級レベルでは100% (30/30) となり、レベルが上がるほど適切に使われていることがわかった。

ここで、表3の出現数をレベル別に見てみると、メタ言語表現の6分類の中で、特に中級-上で1例が上級-上で14例となった②論点化、また、中級-上で28例が上級-上で46例となった⑤言い淀みにおいては顕著な増加がみられた。

4.3 結果のまとめ

4の結果から、以下のことがわかった。

4.1では、西部他 (2023) の6分類別のメタ言語表現において、初級-上以外のレベルでメタ言語表現の使用があることが確認できた。

4.2では、メタ言語表現がどのレベルで使用されるようになるのかについて確認したところ、中級-上から超級のすべてで使用がみられ、特に上級以上では②論点化と⑤言い淀みの顕著な増加がみられた。

5. 考察

本章では、4.2で特徴的であった②論点化と⑤言い淀みに焦点を当て、メタ言語表現の使用が談話の構築や会話相手とのやり取りにどのように関わっているのかを考察

する。5.1で「論点化」について、5.2で「言い淀み」について、レベルによる質的な違いを検討する。

5.1 メタ言語表現にみる「論点化」とレベル

本研究における「論点化」とは「先行発話に言及したもの」であるが、同じ「論点化」でも、レベルが高くなるほど、言及対象（自分の発話、相手の発話、相手の発話（訂正）、第三者の見解／一般論）の範囲が広がる使用が観察された。表4は、論点化の言及対象とレベル別分布である。

表4 論点化の言及対象とレベル（数値は出現数）

| ②論点化 | 言及対象 | 中級-上レベル | 上級-上レベル | 超級レベル |
|-----------------------------|------------|---------|---------|-------|
| 先行発話に言及するメタ言語表現 (数値は出現数) | 自分の発話 | 1 | 1 | 1 |
| | 相手の発話 | 0 | 10 | 2 |
| | 相手の発話（訂正） | 0 | 2 | 2 |
| | 第三者の見解／一般論 | 0 | 0 | 2 |
| | 分類不可 | 0 | 1 | 0 |

(25) から (28) は表4に示した言及対象（自分の発話、相手の発話、相手の発話（訂正）、第三者の見解／一般論）の具体例である。

(25) 中級-上…自分の発話

そうです韓国も同じです〈ん〉、んと一さっきゆったー [言った] あの4つのほうそうしゃー [放送社] 〈はい〉… (略) (中級-上：105、表2-2 (3) 再掲)

(26) 上級-上…相手の発話（訂正）

T：ん、ですよ、やっぱ、まい、ストレスも {笑}

I：いやっ〈**〉、ストレスっていうかですね〈んー〉、ごくみんせい [国民性] が違いますんで {笑} (上級-上：161)

(Tはインタビュアー、Iはインタビュイー)

(27) 上級-上…分類不可

(略) …あの一 {笑} 〈ん〉、まあ常識的に考えると〈んん〉、でももし〈ん〉、あの、今もとになったとゆった [言った] んですけれども〈んんん〉ちょっと、おとえんじゃないかなかもしれません… (略) (上級-上：245)

(28) 超級…第三者の見解／一般論

なんかよくおっしゃるんですけれども〈んーはいはい〉はい、に日韓ってこういうところが違ふとかって〈はい〉おっしゃるんですが〈はい〉、私は皆さんがお、思っらっしゃる〈はい〉、ほどはそそういう違いは感じてない、んですね〈あー〉どちらかという {笑} (超級：348、表2-2 (7) 再掲)

表4にみられるように、中級-上レベルで観察された②論点化は1例のみで、先行する自分の発話に言及することによって論点化する(25)のような使用であった。上級-上レベルになると、自分の発話に言及するのではなく相手の発話を引用して論点化するほかに、(26)のように相手の発話を訂正する目的で引用する形もみられた。しかし、言及対象を音声で何度確認しても自分の発話なのか相手の発話なのかが判断できないものもあった。それが上級-上レベルの(27)の例であった。超級レベルになると、インタビューのやりとりで行われている自分や相手の発話にとどまらず、(28)のように談話の場を超えた、第三者の見解、または一般論のように引き合いに出して参照する形の論点化の使用が観察された。

以上のことから、同じ「論点化」といっても、レベルによって、自分の発話から相手の発話へ、相手の発話から第三者の見解／一般論の参照へと、話者自身が言及対象を広い範囲で捉えることができるようになると思われる。論点化のメタ言語表現の使用は、談話構築に効力を発揮し、インタビューのやりとりの文脈を超えるか超えられないかがレベルと関係していた。李(2020)は日本語母語話者がメタ言語表現を使用する場合、言及対象が自分や他者(相手／第三者)であることを示しているが、本研究では言及対象について日本語学習者のレベル別の使用傾向を明らかにすることができた。

5.2 メタ言語表現にみる「言い淀み」とレベル

本研究では「言い淀み」を「適当な言葉を探していることを示すもの」と定義しているが、4.2に示した表3で「言い淀み」の出現数を比較してみると、上のレベルほど適切に使われていることがわかった。

そこで「論点化」と同様に、上記の「言い淀み」の定義に基づき、表現の観点から例を挙げて検討する。(29)は中級-上レベルで単純に語を検索している状態、(30)は上級-上レベルで単純に語を検索している状態に加え、何を話したらいいかを模索している状態、(31)は超級レベルで、話したいことは決まっており、聞き手により正確に伝わるように表現を探している状態である。

(29)中級-上…単純に語を検索している状態

(略) …趣味で〈えーえー〉、とかああるいはー、とプロの釣りー釣りーなんていうのせんしゅー [選手] みたいな {笑} な*はい〈釣り選手〉、プロの〈はいはい〉プロ、なだったから仕事で釣りーを〈はい〉している人、か [が] はい〈はーそうなんですか〉、お客さんできて [来て] ました (中級-上:105)

(30)上級-上…単純に語を検索している状態に加え、何を話したらいいかを模索して

いる状態

{息を吸い込む音} 例えば、あの一、今、え一、これは、ただ、ま単に私の、意見、a. とうか、ま、私の考えなんですけど {笑} 〈はい〉、ま日本の若者ってけっこうなんか、ちょっと、あの一、{息を吸い込む音} ん一、かん、思考方式的に〈はい〉、なんか、ちょっとずつ弱め、ていく、b. とうか、まあちょっと弱くなってる〈弱くなってる〉、感じがするんですね〈はい〉、なんかキレやすくなっているし〈あ一、はい〉、あの一、なんか、自分、忍耐するという〈あ一〉、のも、そう** (上級-上：91)

(31) 超級…話したいことは決まっております、聞き手により正確に伝わるように表現を探している状態

- a. あ一韓国もそのなんていうんですかねあのアジア的なそういうところは一ん、同じかなっていう (超級：349、表2-5 (17) 再掲)
- b. (略)…まずあのお一、それはある意味で儒教的な〈はい〉考えかた〈はい〉であって、その、あの一それに、*増してですね〈はい〉やっぱり、なんていうんでしょうかあの一、お互いに〈はい〉、あの一他人を敬うとうか〈は一〉遠慮するとうか〈はい、はい〉、そのせいさん、精神がやっぱりす、欠けてきているなど〈は一〉、昔よりもですね (超級：338、表2-5 (18) 再掲)

中級-上の (29) は言い淀み表現「なんていうの」で語の検索をしたものの、「せんしゅーみたいな」「仕事で釣りをしている人」と適当な表現が見つからないまま終わっている。一方、上級-上の (30a) では「私の、意見、とうか、ま、私の考え」のように「意見」を「考え」に言い換えている。このことから意見として主張するわけではなく個人的な見解であるという発話態度がみられる。さらに、(30b) では「ちょっとずつ弱め、ていく、とうか、まあちょっと弱くなってる」のように、「弱めていく」を「弱くなってる」に言い換え、自己訂正を行っている。さらに、超級の (31a) では「韓国もそのなんていうんですかねあのアジア的なそういうところ…」のように「韓国」を「アジア的なところ」に言い換え、(31b) では「儒教的な」ことを「他人を敬うとうか〈は一〉遠慮するとうか」と具体的に言い換え、説明している。

以上のことから、次のような言い淀みにおけるレベル別特徴が明らかになった。中級における言い淀みは、本研究で定義した、適当な言葉を探していることを示す、いわゆる「言い淀み」と判断できる。上級-上では一部表現を修正しながらより適当な表現を選ぼうとしている様子が観察される点で、中級とは異なる¹⁾。超級では相手に明確に伝わるように、自分が話したい内容を調整して発話している。

一方、中級-上の (29) 「なんていうの」は、疑問文によって自問自答で完結するような言い淀みであり、表現を探していることを示しながら自分の発話を維持するこ

とに焦点があたっているようである。これに対し、超級 (31a) 「なんていうんですかね」では丁寧体「ですか」で相手に問いかけつつ、相手と話を共有する際に使用される終助詞「ね」が付加されている。そのため、自己完結の自問にとどまらず、相手を巻き込むような発話態度が表出されているように思われる。また (31b) 「なんていうんでしょうか」では「でしょうか」が使われているが、これは「ですか」よりさらに丁寧であり、相手に向けた発話であることが印象づけられている。これらの超級の発話は会話相手への意識の現れであり、さらには相手の存在への配慮であると言えるのではないだろうか。

古別府 (1997) では、聞き手の存在を意識した言い淀みは、日本人の口頭発表にはみられたものの留学生の発表にはなかったと述べられている。しかし、インタビューを分析した今回の研究では、超級の学習者の言い淀みには聞き手を意識したものがあることが明らかとなった。

5.3 考察のまとめ

本章では、4章の結果から上級以上において使用の増加がみられた②論点化と⑤言い淀みに焦点をあて、考察を行った。

②論点化では、学習者のレベルが上がるにつれ、自分の発話から、相手の発話、相手の発話 (訂正)、第三者の見解／一般論にまで言及の対象が広がり、相手や第三者の発話を取り込んでいく様子が観察された。このことから「論点化」と分類されたメタ言語表現が談話の構築に関わっていることがわかった。

また⑤言い淀みでは、単純に語を検索したり何を話したらいいかを模索したりしている状態だけでなく、相手を意識し、正確に伝わるように表現を探している状態や表現形式として「言い淀み」を用いて相手に配慮していると解釈できる様子もみられた。このことから「言い淀み」と分類されたメタ言語表現が会話相手とのやり取りに関わっていることが示唆された。

6. おわりに

本研究では、日本語インタビューテストにみられる韓国語を母語とする日本語学習者を対象に、メタ言語表現の初級、中級、上級、超級のレベル別特徴を明らかにすることで、日本語学習者のメタ言語表現の使用が談話の構築や会話相手とのやり取りにどのように関わっているのかを知ることを目的とした。

今回対象とした韓国語を母語とする学習者の日本語インタビューテストのデータにおいて、初級ではメタ言語表現はみられなかったが、中級では不完全ながらもメタ言語表現を用いて会話を進める様子が観察された。さらに、上級・超級話者では今回分析を行った「論点化」と「言い淀み」に分類されるメタ言語表現を用いて相手の発話

と関連付けたり、相手に配慮したりしながら、結果的に共話的な談話を作り上げるといふプロセスが示唆された。

今後、韓国語を母語とする日本語学習者を対象にした本研究での結果をもとに、他の言語を母語とする日本語学習者へも対象を広げ、調査・分析を行うことで、会話教育への応用につなげていきたい。

注

- 1) 本研究では「言い淀み」をメタ言語表現の一部として分析しているが、会話分析の分野では「言い淀み」という用語に単なる「言葉の検索」以上の用法があることが、既に指摘されている。例えば、「自問発話」を分析している丸山（2021）や小西（2024）によると、(30a) (30b) のような例は「説明の仕方を逡巡」（小西 2024 p.265）していると言える。

付記

本稿は「第33回小出記念日本語教育学会年次大会」における口頭発表の内容に加筆・修正を加えたものである。貴重なご意見、ご指摘をくださった方々に心より感謝申し上げます。

参考文献

- 小西円（2024）「日本語学習者の自問発話」定延利之・丸山岳彦・遠藤智子・船橋瑞貴・林良子・モクタリ明子（編）『流暢性と非流暢性』ひつじ書房、255-269
- 西條美紀（1999）『談話におけるメタ言語の役割』風間書房
- 佐々絃子（2015）「日本語と韓国語におけるメタ言語表現の機能に関する一考察—映画・ドラマのシナリオの用例を中心に」日本語／日本語教育研究会（編）『日本語／日本語教育研究 [6]』ココ出版、181-195
- 西部由佳・金庭久美子・岩佐詩子・坂井菜緒・萩原孝恵・奥村圭子（2021）「日本語インタビューテストにみられる応答開始時のレベル別特徴—『くり返し』と『考えている』表現に注目して—」『小出記念日本語教育研究会論文集』29、39-54
- 西部由佳・岩佐詩子・奥村圭子・金庭久美子・坂井菜緒・萩原孝恵（2023）「日本語インタビューテストにみられるメタ言語表現の分類とその役割—上級・超級韓国語母語話者に着目して—」『2023年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、231-235
- 古別府ひづる（1997）「研究報告場面における留学生のメタ言語表現—口頭発表教材のシラバス化の可能性を探る—」『山口県立大学国際文化学部紀要』3、37-47
- 丸山岳彦（2021）「自問発話の形式と機能」日本のローマ字社（編）『ことばと文学14』、日本のローマ字社、13-22

李婷 (2020) 「メタ言語表現とコミュニケーションのメタ認知との関係」『待遇コミュニケーション研究』17、85-101

参考資料

国立国語研究所 『日本語学習者会話データベース』 <https://mmsrv.ninjal.ac.jp/kaiwa/> (2024年8月15日)